

1 学校の概要

(1) 校 区

龍峯校区は八代市の北東、龍峯山の西麓に位置し、652世帯、1607人（令和2年4月末現在）の農村地帯である。八代インターチェンジの設置により、流通基地としての機能ももち、発展し変貌している。

古代より八代地方の文化の中心地のひとつとして栄えてきたため、多くの史跡が存在し、その歴史的たたずまいとさわやかな山気は人心豊かな風土を形成している。

居住地区は、龍峯山と西部の水田地帯に挟まれた丘陵地帯に細長く展開し、そこを国道3号線が縦貫している。

昭和36年に八代市と合併するまで、ひとつの独立した村であったため、現在でも地域共同体意識が強く、学校の果たす社会的役割は大きい。また、市の周辺部に位置しているため、図書館等の文化施設、体育施設の利用に不便をきたすこともあり、夜間の施設利用や地域の公園的な役割も担っている。このため学校に対する校区民の関心は非常に高く、また協力的である。

これまでの校区の経済的基盤は、い草、水稻、ミカンにあり、社会的にも安定していたが、交通網の発達により近郊型の企業の進出があり校区の景観も変貌している。

(2) 学 校

児童数60人、学級数8、職員20人（県費定員13人）の小規模校である。

昭和55年に新校舎が完成し、運動場も整備された。また、市道をはさんで位置するプールは平成11年に改築された。

学校は、高速道路と国道3号線に挟まれているが、樹木や人家が緩衝地帯となり静かな環境である。しかし、国道は朝夕の交通量も多く、国道を横断して通学する児童は交通事故の危険にさらされている。

昭和45年から始まった全校体育の「九州一周マラソン」は52年後の今日まで続いており、通算527人が完走（令和4年3月末現在）している。本校教育の大きな特色を成すとともに、それを基調とした「やる気」をおこす児童の育成は、本校教育を貫く指針ともなっている。

また、昭和40年代に始まった中庭給食は、その後「藤棚給食」として本校の伝統となり、校舎改築後は、昭和60年から再開され、現在は地域老人会や福祉協議会との交流の場となっている。ただ、ここ数年はコロナ禍の影響で藤棚給食はできず、今年度は児童のみで行ったところである。

(3) 児 童

全般的に素直で明るく、男女仲がよく協力的である。また異学年間の交流も盛んで、高学年が低学年の子どもの面倒をよく見ている。病気による欠席も少なく、生き生きとして毎朝元気よく運動場で走り回る姿が見られる。

本校の卒業生は八代市立第二中学校と氷川中学校に分かれて進学している。それぞれの中学校とは十二校園の幼・保、小、中、高連絡会と三校連絡会を通して連携も充実しており、進学への意欲につながっている。

※ 児童数の推移（平成23年～令和4年度）

年度	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	2	3	4
1年	11	16	11	15	12	17	9	9	9	12	11	7
2年	17	11	17	11	15	12	17	10	8	9	13	11
3年	13	17	12	17	12	15	12	16	10	8	9	13
4年	10	13	17	12	18	12	15	11	15	10	9	9
5年	12	10	13	18	12	18	12	15	11	15	10	10
6年	12	12	10	13	17	12	18	11	15	11	17	10
計	75	79	80	86	84	85	83	72	68	66	69	60

2 校地・校舎の実態と環境

(1) 実 態

① 面 積

- 建物総面積 2, 580㎡
- 運動場面積 6, 927㎡ （児童1人当 115㎡）
- 学校林 5, 020㎡

② 校舎区分

- 普通教室 6室 ● パソコン室 1室 ● 保健室 1室
- 特別支援教育教室 2室 ● 体育館 1室 ● 資料室 1室
- 理科室（兼家庭科室） 1室 ● 校長室 1室 ● 生活科室 1室（別棟）
- 理科準備室 1室 ● 職員室 1室 ● 柔道室 1室（別棟）
- 図書室 1室 ● 給食受庫・資料室 1棟 ● 体育倉庫 1棟
- 音楽室兼視聴覚室 1室 ● 会議室 1室 ● 便所 2棟
- 放送室・スタジオ 1室 ● 事務室 1室

(2) 環 境

- ① 龍峯山（517m）の西麓、なだらかな台地に学校はあり、四季緑に恵まれさわやかな山気に包まれている。しかし、国道3号線の交通量の増大に伴い、また、学校の東120m地点には高速道路が走り、その様子も変貌を遂げつつある。また校区の南端に設置されたインターチェンジを中心に交通運輸の基地としての機能が拡大している。
- ② 校区には重要文化財毘沙門天立像をはじめ、古代からの遺跡や貴重な文化財が豊富にあり、生きた歴史学習ができる。
- ③ 校庭には大きな樹木が多く、潤いのある環境を作り出すとともに、国道や高速道路からの騒音を防ぐ働きをしている。
- ④ 校舎、管理棟に隣接した「遊びの広場」は、運動場とは区分されたスペースとして、低学年から高学年までがともに仲良く遊ぶ姿が見られる。
- ⑤ 校舎前の遊びの広場に藤棚があり、校区の方の管理援助により、毎年美しい花をつけている。花の時期の藤棚給食は本校の名物になっており、毎年テレビ、新聞等で報道され、県下一円に広く知られ

ている。児童の祖父母、福祉推進協議会、地域住民等と会食をしながら交流を行っている。

- ⑥ 九州一週マラソンやハンドロープウエイなど、特色ある体力づくりは伝統的に受け継がれ実践されている。また、楽しい体力づくりのための新しい設備の工夫も必要である。
- ⑦ プールは校舎と市道を隔てて位置している。場所的な条件もあり、施設及び水の管理に常に留意する必要がある。
- ⑧ 児童の登下校では、国道３号線を横断しなければならない児童もいる。各所に横断歩道と信号機が整備されてきたものの、細心の注意が必要である。また、通学路への不審者への出没にも警戒しなければならない。
- ⑨ 不知火幹線用水路と排水路は近代化され、児童の通学路側には防護柵が設置されているが、金網の破損部分からの進入防止や橋からの転落防止に細心の指導が必要である。また、学校の前の市道は通学道路として車の進入規制がしてあるが、道路が狭く見通しも悪いため、規制外の時間帯の通行には特に注意する必要がある。
- ⑩ 校区は土石流災害が予想される地域であり、また、日奈久断層上に位置する。そのため、災害発生時の避難訓練や避難所開設の準備については計画的に実施する必要がある。